

誓い

私達が生まれてから今年で二十年。成人になるまでに私達を温かく見守り、支えて下さった両親や先生、地域の方へ誓います。

小学生。

初めてランドセルに手を通したあの時のワクワク、これからの未来に高鳴る思いは今でも鮮明に覚えています。

今まで通っていた幼稚園、保育園とはまるで違う環境や授業、新しい友達。

入学式を終えて初めて座った椅子。初めての友達と歩いた家までの帰り道。

夏休み前には両手いっぱいの大荷物。一生懸命本を読んで書いた読書感想文に、親と作った自由工作。自由研究にも苦戦した記憶があります。

でも、そんな六年間もあっという間でした。

卒業式の日、中学生になるという実感が湧かないまま、先生や校舎に別れを告げました。初めてだらけの6年間は、たくさんの思い出を残してあっという間に過ぎていきました、

中学生。

思春期になり、素直になれない時も多かったです。

仲が良かった友達とも度々衝突したり、親の言うことにはとにかく反抗したり。

環境の変化もあってか、気難しい時期が続きました。

それでも皆でお昼ご飯を食べたり、それぞれクラブ活動に勤しんだり。

三年生には修学旅行もあつたりと楽しい思い出も沢山出来るだろうと期待をふくらませながら過ごしていました。そんな中で突如発表された緊急事態宣言。

新型コロナウイルスによって世界が一瞬で姿を変えました。立て続けに閉鎖になる

学校や店。外に出れず家の中で過ごす日々。友達にも会えず、授業も受けられず、

ただ時間が過ぎるのを待つしかありませんでした。そうして変わってしまった生活の中で、私たちは高校一年生の春を迎えました。

今までそばにいた友人と離れ離れになり、将来への不安が募る中で始まる新しい生活に、果たして慣れるだろうか、友人はできるのだろうか、そんな事ばかりが頭に浮かびました。

けれど、新しい友達と過ごした放課後、全力で打ち込んだ部活動。制限もあったけれど団結して作り上げた体育祭、文化祭。今までとは違う新しい趣味を見つけたり、バイトをして贅沢をしたり、友達と旅行に行ったり。少し不自由もあったけれど、今でも笑って語れる一生の思い出がたくさんできました。

今年で二十歳を迎えた私達は、各々が自分の目指す将来へと進んでいます。

大学、専門学校で勉強に励んでいる人もいれば、就職をして毎日仕事に奮闘している人もいます。

立場や環境は様々ですが、それぞれが自身の夢をかなえるために日々努力をしています。二十年間でのたくさんの知識、経験、感情を学び、様々な人と出会い、たくさんの失敗を繰り返し、結果がついてこない辛さに、時には涙を流し、苦しんだときもありました。

ですが、その度に立ちあがる勇気を周りが教えてくれ、自身を鼓舞して、ここまで成長することができました。どうかこれからも未熟ながらも前に進む私たちを温かく見守ってください。

最後になりましたが、成人するにあたり、ここまで育ててくれた両親、ご指導いただいた先生方、温かく見守り支えてくださった地域の皆様に感謝を申し上げます。これからは成人した大人として、社会を構成する一員として、自身の行動に責任を持ち、仲間と苦楽を共にし、楽しみながら、自分らしく、自分が決めた道を歩み続けることを誓います。

令和8年1月12日

安部 優駿

奥田 知樹

楠本 豪之介

松本 愛子